

大学のシラバスにみるカタカナ語

—全学共通教育の主題科目と学問基礎科目の分析から—

西 崎 紗 彩¹ ・ 平 田 史 織¹ ・ 山 下 直 子²

<要 旨>

日本の大学や大学院で学ぶ外国人留学生が、より良い大学生活を送るためには、授業のシラバスについて理解することが第一歩であり、その理解にはカタカナ語についても学ぶ必要がある。そこで、本研究では、外国人留学生を対象とした効果的なカタカナ語学習を検討するために、主として大学1年次の学生が受講する全学共通科目のシラバスを対象にしたカタカナ語の調査を行い、その使用実態を明らかにすることをめざした。その結果、学問基礎科目のシラバスよりも主題科目のシラバスには、出現頻度・種類ともに多くのカタカナ語が出現することが明らかになった。また、シラバスに出現するカタカナ語は難易度が高く、多くのシラバスに広範囲に出現する語は、大学の仕組みや授業の形態・手法などに関するカタカナ語であることが分かった。

キーワード：カタカナ語、外来語、シラバス、全学共通科目、外国人留学生

1. はじめに

独立行政法人日本学生支援機構(2017)が実施した「平成29年度外国人在籍状況調査結果」¹によると、大学に在籍する外国人留学生(以下、留学生とする)は、平成19年度(2007年度)では59,510人であったのに対し、平成29年度(2017年度)では77,546人となっている。また、大学院に在籍する留学生数も、31,592人(平成19年度)から46,373人(平成29年度)へと増加している。留学生数は、東日本大震災が発生した平成23年度(2011年度)からやや減少した時期もあるが、全体的にみると増加傾向にある。

大学や大学院で学ぶ留学生は、入学した際に、まず授業の受講登録を行うことが求められる。授業を選択するときに助けとなるものがシラバスである。シラバスでは授業の概要や計画などの授業に関する様々な情報を得ることができる。そのため、大学生や大学院生にとってシラバスは欠かせない重要なものであり、留学生にとっても同様である。留学生は、シラバスの内容を理解することが必要であるが、英語版のシラバスは増えつつあるものの、日本語で書かれた文章を読まなければいけないという状況がある。

シラバスには、和語や漢語だけではなく、カタカナ語(外来語等のカタカナで表記される語)も

1 香川大学大学院教育学研究科

2 香川大学教育学部

出現する。カタカナ語の習得には、さまざまな困難がともなうと指摘されている(石綿2001他)。カタカナ語は外国から入ってきた言葉であるが、元の発音や意味と隔たりがあるものも多い。また、カタカナ語は日本語能力試験(JLPT)の出題基準語彙にも含まれているが、取り扱われているカタカナ語の多くは高い難易度に位置している。さらに、それらのカタカナ語は、カタカナ語の一部をカバーしているにすぎない。中山(2001)では、日本語教科書で学ぶカタカナ語(平均385語)のうち、新聞に頻出するものは平均126語しかなかったという結果が示されている。このようなことから、カタカナ語は日本語学習者にとって難しい語となっている。中山・陣内・桐生・三宅(2008)でも、調査対象とした学習者のうち72.0%がカタカナ語の読み書きに困難を感じていることや、77.9%がカタカナ語が分からず日常生活で困難を感じていることを明らかにしている。その一方で、予備教育の段階ではカタカナ語教育は十分ではなく、使用教材に出現するカタカナ語の指導にとどまっているという。このような現状で、山下・轟木・畑(2015)では、日本語学習者のカタカナ語の学習への要望が強いことを指摘している。また、山下・畑・轟木(2013)では、表記を中心にカタカナ語の指導を試み、指導後には成績が向上し苦手意識が軽減するとしている。

2. 研究の目的

留学生がより良い大学生活を送るためには、シラバスについて理解することが第一歩であり、その理解にはカタカナ語についても学ぶ必要がある。カタカナ語の使用状況を調査した研究としては、すでに橋本(2003, 2006)や山口(2007)等があるが、新聞記事やその投書欄、社説を対象としたものである。そこで、本研究では、大学で学ぶ留学生を対象とした効果的なカタカナ語学習を検討するために、大学のシラバスを対象にしたカタカナ語の調査を行い、その使用実態を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

3-1 調査対象としたシラバス

本研究では「香川大学シラバス(2017年度)」(香川大学2017)²における全学共通科目³のうち、主に入学時にシラバスを読んで授業選択を行う主題科目と学問基礎科目に登録されている授業のシラバスから、計30授業分を選定して調査を実施した。全学共通教育の全学共通科目は、専門教育を受けるための準備として、様々な分野の基礎的知識を学ぶことを目的とし、1年次の学生が中心に受講するものである。留学生が大学に入学し、所属学部に関わらず最初に受講する科目であることから、これらの科目を調査対象とした。主題科目(計133授業)と学問基礎科目(計72授業)は、それぞれ次のような科目である。

主題科目

21世紀を生きる学生が将来市民として直面する社会的課題を発見する力、そしてその課題を解決する力を育成することを目指す科目です。主題A「人生とキャリア」では、「人生」や「生き方」といった広い意味での「キャリア」をテーマとした講義、主題B「現代社会の諸課題」では、現代社会が直面する諸問題をテーマとした講義、主題C「地域理解」では、地域の現状や課題をテーマとした講義が開かれています。

学問基礎科目

それぞれの学問分野には長い伝統と最新の研究に基づいた体系があります。学問基礎科目の第一の目標は、この「体系的に確立された学問分野」について幅広い知識を学び、さまざまな学問の対象と方法について初歩的な理解を手に入れることです。第二の目標は、専門教

育を受けるのに必要となる基礎的知識を確実に習得することです。

(香川大学ホームページ「全学共通教育」⁴より)

本研究では、主題科目(主題A, 主題B, 主題C)と学問基礎科目(理系分野, 文系分野)の各5科目から、6桁の時間割コードの下1桁が「1」のものを6授業ずつ選定した。ただし、主題Aと主題Cでは選定数が6に達しなかったため、「1」以外の奇数「3」「5」「7」のシラバスも取り出した。また、各シラバスは下記の通り15の要素から構成されているが、そのうち今回分析対象としたものは「授業の概要」から「履修上の注意・担当教員からのメッセージ」までの8つの要素である。ただし、教科書などの価格や出版年に関する記述は分析対象としなかった。

シラバスの構成

「DP・提供部局」, 「授業形態」, 「関連授業科目」, 「履修推奨科目」, 「学習時間」, 「授業の概要」, 「授業の目的」, 「到達目標」, 「成績評価の方法と基準」, 「授業計画並びに授業及び学習の方法」, 「教科書・参考書等」, 「オフィスアワー」, 「履修上の注意・担当教員からのメッセージ」, 「参照ホームページ」, 「メールアドレス」

(香川大学2017より)

3-2 カタカナ語の抽出と言語単位

カタカナ語の抽出に先立ち、まず、調査対象である計30授業分のシラバスの本文をそれぞれの形態素に分けた。作業は、形態素解析システム「茶筌」に基づき作成された「WebCha」⁵を使用した。このシステムは、ウェブページ上に公開されており、文を入れると各形態素に分割し品詞や活用形などを判別するものである。各形態素に分けたのち、カタカナ語を抽出した。抽出したカタカナ語には、単純語だけでなく合成語も含まれる。合成語には、カタカナ語同士で構成されている語と、カタカナ語と和語・漢語・アルファベットが結合している混種語がある。また、カタカナ語の固有名詞(会社名、システム名、出版社名、商品名、人名や建物名など)も抽出した。ただし、和語をカタカナ語表記にしたものは除外した(例:「ウシ」や「ブタ」など)。

本調査における言語単位は、現代日本語書き言葉均衡コーパス「中納言(BCCWJ)」⁶における「形態論情報」を参考にし、形態素を基にした「短単位」を採用した。「短単位」は文節を基にした「長単位」よりも、それぞれの作業のずれを防ぐことができるとされている。短単位では、合成語はそれぞれの要素に分けられる。例えば「スマートフォン」は長単位では1語扱いとされるが、短単位では「スマート」と「フォン」の2語扱いとなる。「グレゴリー・マンキュー」のようなカタカナ語表記の固有名詞も、同様に「グレゴリー」と「マンキュー」の2語に分けられる。ただし、「スマホ」のような省略されたカタカナ語は例外的に1語扱いとされ、「スマ」と「ホ」のそれぞれの要素に分けられることはない。

また、「スマホ」と「スマートフォン」のように同じ意味を示した語であっても、省略された語と元の語はそれぞれ別の語とみなした。アルファベット表記の語に関しては、ひとまとまりになっているものを1語扱いとした(例1)。

例1 : LMS → 1語, Learning Management System → 3語

(主題C「四国の自然環境と防災」より)

3-3 分析の方法

本研究では、橋本（2003）の分析観点を参考にし、得られたカタカナ語の「語数（延べ語数および異なり語数）」、「語構成」、「出現度数」、「広範囲語」、「品詞」、「合成語の成分」を分析した。さらに、これらに加えてカタカナ語の「難易度」（日本語能力試験出題基準に沿ったもの）も、その分析観点に入れた。

4. 結果と考察

4-1 抽出したカタカナ語

調査対象のシラバスから抽出したカタカナ語の語数は、延べ789、異なり223であった。表1は、科目分野ごとの語数の合計と割合を示したものである。1段目にはシラバス全体の延べ語数、2段目にはカタカナ語の延べ語数、3段目にはシラバスにおけるカタカナ語が占める割合、4段目にはカタカナ語の異なり語数を記す。シラバスにおけるカタカナ語の割合は、学問基礎科目が2.89%、主題科目が4.49%であった。また、図1は、カタカナ語のみの延べ・異なり語数をグラフで示したものである。

次に、各科目におけるカタカナ語の語数について比較する。表2は、学問基礎科目（理系・文系）および主題科目（主題A・主題B・主題C）における、カタカナ語の延べ語数の平均と標準偏差を示したものである。

分散分析⁷を行った結果、 $F(1,28) = 14.38$, $p < .01$ となり、学問基礎科目と主題科目のカタカナ語の延べ語数に有意差がみられた。したがって、主題科目のシラバスには、学問基礎科目のシラバスよりもカタカナ語が頻出していることが明らかになった。

表1 科目分野ごとのカタカナ語の語数と割合

科目	学問基礎科目			主題科目				総計
	理系	文系	合計	主題A	主題B	主題C	合計	
延べ(全体)	3,636	3,640	7,276	3,596	4,542	4,752	12,890	20,166
延べ(カタカナ語)	99	111	210	157	208	214	579	789
カタカナ語割合(%)	2.72	3.05	2.89	4.37	4.58	4.50	4.49	3.91
異なり(カタカナ語)	51	60	98	52	60	95	162	223

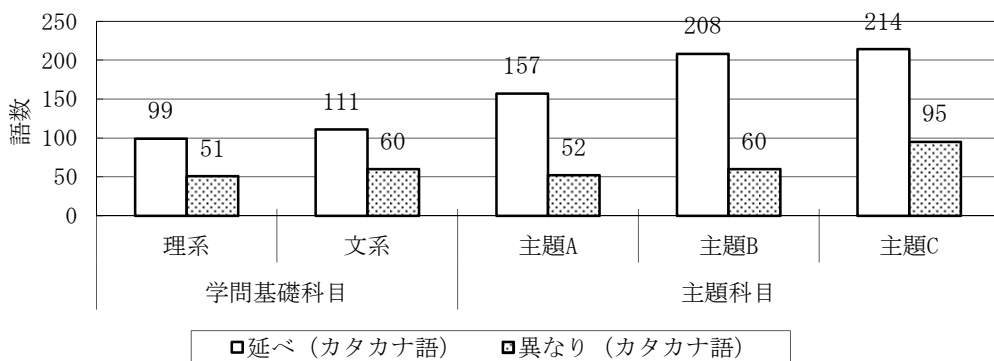


図1 科目分野ごとのカタカナ語の語数

表2 カタカナ語の語数の平均と標準偏差
(延べ語数)

	学問基礎科目	主題科目
N	12	18
平均	17.50	32.17
標準偏差	9.91	10.10

表3 カタカナ語の語数の平均と標準偏差
(異なり語数)

	学問基礎科目	主題科目
N	12	18
平均	11.58	18.28
標準偏差	5.45	6.14

表4 カタカナ語の語構成

語構成	合成語			合成語の割合(%)	単純語
	カタカナ語同士	混種語	合計		
異なり	83	93	161	61.22	102
延べ	208	298	506	64.13	283

次に、異なり語数についても比較する。表3は、各科目における、カタカナ語の異なり語数の平均と標準偏差を示したものである。

同様に分散分析を行ったところ、 $F(1,28) = 8.73$, $p < .01$ となり、学問基礎科目と主題科目のカタカナ語の異なり語数に有意差がみられた。したがって、主題科目のシラバスには、学問基礎科目のシラバスよりも多様な種類のカタカナ語が出現しているといえる。

以上のことから、主題科目のシラバスには、出現頻度・種類ともに、学問基礎科目のシラバスよりも多くのカタカナ語が出現することが明らかになった。金(2011, 2012)によれば、20世紀後半より、日本語においてカタカナ語の基本語化が起きている。さらに、学問基礎科目が伝統的な学問分野の知識を学ぶ科目であるのに対し、主題科目は現代社会の課題などを学ぶ新しい科目である(香川大学2017)。主題科目にカタカナ語が多く使用されていることは、カタカナ語の多用が起きている現代社会の反映であるといえよう。

4-2 語構成

表4は、抽出したカタカナ語の語構成を記した表である⁸。抽出したカタカナ語のうち単純語は、異なり102、延べ283であった。形容動詞とサ変動詞は、単純語として分類した。

合成語をみると、異なり161、延べ506であった。異なり・延べともに、合成語がカタカナ語全体の約6割を占め、単純語を上回った。さらに合成語を、カタカナ語同士が結びついた語と、和語や漢語と結びついた混種語とに分類したところ、異なり・延べともに、混種語がカタカナ語同士を上回る結果となった。以上のことから、本調査で抽出したカタカナ語は、単純語より合成語のほうが多く、さらに、単純語よりも合成語のほうが繰り返し出現することが明らかになった。

4-3 出現度数

次に、使用頻度の高いカタカナ語について調べる。表5は、出現度数が1位から37位までの50語を、上位から順に並べたものである。なお、学問基礎科目および主題科目の両方に使われている語を太字で、学問基礎科目のみに使われている語を下線で示した。

最も出現度数が多かったカタカナ語は「レポート」で、単純語で21回、合成語で49回の計70回出現していた。また、学問基礎科目と主題科目の両方において使用されていた。「グループ」および「ワーク」は、出現度数が高いにもかかわらず、主題科目にしか使用されていなかった。また、「グ

表5 カタカナ語の出現度数(上位50語)

順位	度数	カタカナ語
1	70	レポート
2	41	グループ
3	31	スタンダード, ワーク
5	22	テスト
6	18	ミニ
7	17	テーマ
8	15	テキスト
9	14	エネルギー, ガイダンス
11	13	システム
12	12	プリント, リテラシー
14	11	アドバイス, キャリア, センター
17	10	キャンパス, フィールド, プログラム, <u>マクロ</u>
21	8	イメージ, グローバル, ニュース, メール
25	7	イントロダクション, ヴィジュアル, カウンセリング, ケース, データ
30	6	オリエンテーション
31	5	キー, トピック, ノート, ブロック, ポイント, ワード
37	4	アワー, <u>イオン</u> , オフィス, <u>キリスト</u> , コラージュ, コンテンツ, テレビ, <u>ネクスト</u> , ビデオ, プレゼンテーション, ページ, <u>ベクトル</u> , メディア, モデル

ループディスカッション」, 「グループワーク」, 「ワークショップ」や「フィールドワーク」などの、授業形態を表す語として出現していた。このことは、学問基礎科目と主題科目の授業形態の違いを示しているといえる。三宅(2006)によれば、日本では大学全入時代を迎え、これまでとは違った大学教育が必要となっている。そのため、講義形態にも変化が起きていると考えられる。

一方、学問基礎科目のみに使用されている語は「イオン」(化学), 「ベクトル」(物理学), 「キリスト」(倫理学)などであり、科目特有の用語であることが分かった。

4-4 広範囲語

表5に挙げた使用頻度の高いカタカナ語は、特定のシラバスにおいて繰り返し出現した語と、複数のシラバスに出現した語に分けられる。そこで、それぞれの語がいくつのシラバスに出現したのかに着目し、多くのシラバスに出現した語を「広範囲語」と呼ぶことにする。表5の50語のうち、出現シラバス数が3以上の広範囲語を抽出したところ、表6に示した32語であった。

「スタンダード」は、「共通教育スタンダード」⁹という合成語で、9割にあたる27のシラバスに出現している。これは、大学側がシラバスへの記載を推奨しているためであると考えられる。次に、「レポート」が8割の24のシラバスに出現しており、この語が複数のシラバスに繰り返し出現していることが分かる。

「アドバイス」以下の語は、出現シラバス数が4割未満と少なくなる。しかし、「キャンパス」, 「ガイダンス」, 「センター」などは大学の仕組みに関する語であり、「ワーク」, 「グループ」, 「プリント」などは授業の形態・手法などに関する語である。そのため、いずれの広範囲語も、授業の履修にあたって理解しておく必要があるカタカナ語であるといえる。

表6 カタカナ語の出現シラバス数(上位32語)

カタカナ語	シラバス数	割合(%)
スタンダード	27	90.00
レポート	24	80.00
アドバイス	11	36.67
キャンパス	10	33.33
ガイダンス	9	30.00
センター	9	30.00
テーマ	9	30.00
ワーク	9	30.00
グループ	8	26.67
プリント	8	26.67
キャリア	7	23.33
システム	7	23.33
テキスト	7	23.33
テスト	7	23.33
ミニ	7	23.33
メール	7	23.33
オリエンテーション	6	20.00
イントロダクション	5	16.67
キー	5	16.67
ポイント	5	16.67
ワード	5	16.67
アワー	4	13.33
オフィス	4	13.33
グローバル	4	13.33
トピック	4	13.33
ページ	4	13.33
エネルギー	3	10.00
ノート	3	10.00
フィールド	3	10.00
プレゼンテーション	3	10.00
プログラム	3	10.00
リテラシー	3	10.00

4-5 品詞

シラバスに出現したカタカナ語を、品詞ごと(名詞、動詞、形容詞、形容動詞)に分け、各科目における品詞ごとの延べ語数や異なり語数、割合を調べた。その結果を示したものが表7と表8である。表7は延べ語数とその割合、表8は異なり語数とその割合である¹⁰。

表7と表8をみると、主題科目(主題A、主題B、主題C)と学問基礎科目(理系、文系)の全5科目で、延べ語数・異なり語数ともに名詞が最も多く、そのほとんどを占めていることが分かる。

表7 科目分野ごとのカタカナ語の品詞(延べ語数)

延べ語数	学問基礎科目		主題科目		
	理系	文系	主題A	主題B	主題C
名詞	97 (97.98%)	109 (98.20%)	157 (100.00%)	205 (98.56%)	211 (98.60%)
動詞	0 (0.00%)	1 (0.90%)	0 (0.00%)	1 (0.48%)	0 (0.00%)
形容詞	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)
形容動詞	2 (2.02%)	1 (0.90%)	0 (0.00%)	2 (0.96%)	3 (1.40%)
合計	99 (100.00%)	111 (100.00%)	157 (100.00%)	208 (100.00%)	214 (100.00%)

表8 科目分野ごとのカタカナ語の品詞(異なり語数)

異なり語数	学問基礎科目		主題科目		
	理系	文系	主題A	主題B	主題C
名詞	49 (96.08%)	58 (96.67%)	52 (100%)	60 (95.24%)	94 (97.92%)
動詞	0 (0.00%)	1 (1.67%)	0 (0.00%)	1 (1.59%)	0 (0.00%)
形容詞	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)
形容動詞	2 (3.92%)	1 (1.67%)	0 (0.00%)	2 (3.17%)	2 (2.08%)
合計	51 (100.00%)	60 (100.00%)	52 (100.00%)	63 (100.00%)	96 (100.00%)

表9 出現した動詞・形容動詞

品詞(語数)	出現度数	カタカナ語(科目分野)
動詞(2語)	1	チェック(学問基礎・文系), リテラシー(主題B)
形容動詞(6語)	2	グローバル(主題B, 学問基礎・文系), タフ(主題C)
	1	ヴィジュアル(主題B), ソフト(主題C), マクロ(学問基礎・理系), ミクロ(学問基礎・理系)

最も名詞の割合が低い科目をみても、延べ語数では学問基礎科目・理系(97.98%)、異なり語数では主題B(95.24%)とそれぞれ高い割合である。それに対し、名詞ではなく、他の品詞で出現したカタカナ語の割合は、学問基礎科目・理系の形容動詞が最も高いが、延べ語数2.02%、異なり語数3.92%と少なかった。

シラバスに出現した動詞と形容動詞は、表9に示す。動詞は2語、形容動詞は6語のみ(計10回の出現)であり、形容詞に関しては全く出現しなかった。

新聞の投書欄を調査した橋本(2003)でも、カタカナ語の約95%を名詞が占め、動詞や形容動詞、形容詞は少なかったという結果が明らかになっている。そのため、カタカナ語における各品詞の割合に関しては、新聞の投書欄とシラバスで同様の傾向がみられたといえる。そうした背景には、カタカナ語がまず名詞の形で社会の中に定着し、それから他の品詞へと広がることがある。

次に、動詞や形容動詞として出現したカタカナ語の出現形態に着目する。表10はその出現した形すべてを示している。

動詞、形容動詞ともに出現数が少なかったため、出現した活用形の種類も少ない。そのため、出現する活用形の傾向までは明らかにすることができなかったが、今回の調査では、形容動詞において、カタカナ語に「-な」を付けた連体形での出現が連用形よりも多くみられた。また、動詞では「チェック」と「リテラシー」の2種類のカタカナ語が、どちらもサ変動詞として出現した。しかし、

表10 動詞・形容動詞の出現形態

品 詞	出現形態
動詞	テ形+動詞「みる」(チェックする) 辞書形+形式名詞「こと」(リテラシーする)
形容動詞	連体形「-な」(グローバル, マクロ, ミクロ), 「-的な」(ヴィジュアル) 連用形「-で」(タフ), 「-に」(ソフト)

表11 6語以上の混種語を作るカタカナ語

カタカナ語(語数)	混種語
レポート(13語) ※単純語21回出現	課題-, 期末-, 期末-課題, 最終-, 最終課題-, 試験-, 自由研究-, 小-, 中間-, 中間課題-, 中間・期末-, -課題, -作成
センター(9語)	アジア・アフリカ交流-, 香川県直島環境-, キャリア支援-, 教育支援-, 研究-, 生涯学習教育研究-, 日本図書-, e-Learning教育支援-, JACIC四国地方-
キャンパス(6語)	医学部-, 北-, 幸町-, 幸町北-, 幸町南-, 林町-
システム(6語)	学習管理-, 教務-, 工学部安全-建設工学科, 保障-, e-Learning-, Web-

橋本(2003)と比べると、抽出されたカタカナ語の合計数は異なるが、シラバスにおいてはサ変動詞の出現数やその種類は少ない。このことから、シラバスでは投書欄よりも硬い表現が好まれるために、カタカナ語よりも和語や漢語が選択されやすいということが考えられる。

4-6 合成語の成分

シラバスでの出現度数が3以上のカタカナ語65語に絞って、その成分の分析を行った。65語のうち、11語は単純語のみ(「アドバイス」、「イントロダクション」、「テキスト」など)での出現であったが、それ以外の語は合成語でも出現した。

ここで、その合成語に着目し、それらがどのような合成語であるかについて述べる。シラバスで頻出した合成語は、カタカナ語同士で構成された語よりも混種語のほうが、延べ語数・異なり語数ともに多かった。延べ語数では、カタカナ語同士の語が143語だったのに対し、混種語は236語とその約1.7倍であった。異なり語数でも、カタカナ語同士の語が36語、一方で混種語が93語(約2.6倍)となっている。

また、この結果からは、混種語には多くの種類が出現するが、カタカナ語同士の語には混種語ほど多くの種類が出現しないことも明らかになった。6語以上の混種語を作っているカタカナ語を表11に示す。

このように混種語に多くの種類が出現する理由の1つには、「センター」、「キャンパス」や「システム」では多くが固有名詞となり、施設名や場所の名前、システムの名前を指すものとなっていることが挙げられる。一方で、カタカナ語同士の語では、6語以上を作るカタカナ語はなく、「ワーク」が5語(グループ-, -シート, -ショップ, -ライフ・バランス, フィールド-)で最も多かった。

4-7 難易度

シラバスでの出現度数が3以上のカタカナ語65語を取り出し、それらの語の難易度を調べた。各

表12 カタカナ語の難易度

級外	32語	49.23%
N1	8語	12.31%
N2・N3	17語	26.15%
N4	3語	4.62%
N5	5語	7.69%
計	65語	100.00%

表13 N5のカタカナ語と結びつく語の難易度

カタカナ語	合成語(難易度)
テスト	期末 - (N1), 小 - (N2・N3), 中間 - (N2・N3)
ニュース	経済 - (N4)
ノート	講義 - (N4)
ページ	ウェブ - (級外), ホーム - (N2・N3)

カタカナ語の難易度を判定するためには、日本語読解学習支援システム「リーディングチュウ太(Reading Tutor)」¹¹を使用した。このシステムでは日本語能力試験出題基準に沿って、語の難易度が「級外」「N1」「N2・N3」「N4」「N5」の5つに分類される。出現度数が3以上の65語の難易度を調べた結果を表12示す。

表12をみると、級外¹²が全体の49.23%を占めて最も多く、次いでN2・N3, N1, N5, N4となっている。この結果から、シラバスには難易度の高いカタカナ語が多く含まれており、N4やN5の難易度の低いものは少ないことが分かる。また、シラバスで頻出したカタカナ語の約半数が、日本語能力試験出題基準に含まれていない語である。したがって、これらの語が留学生にとって、未学習または初見のカタカナ語である可能性が高いと言える。

さらに、合成語となり他の語と結びついた場合には、難易度がさらに高くなることもある。例えば、カタカナ語同士が結びついた語「オフィスアワー」は、「オフィス」がN2・N3と判定されたが、「アワー」は級外と判定された。N5と判定されたカタカナ語5語においても、「テレビ」以外の4語は合成語でも出現している。N5と判定されたカタカナ語とともに合成語を構成する要素となっているカタカナ語や和語、漢語の難易度を調べた結果を、表13に示す。

上記の結果から、N5のカタカナ語とともに合成語を構成する要素となっている語が、それぞれ級外またはN1, N2・N3, N4と判定され、N5よりも高い難易度であるということが明らかになった。このように、合成語では、一方のカタカナ語が低い難易度であっても、それと結びつく語が高い難易度である場合もある。そのため、留学生がそのような合成語の意味を理解することは難しいのではないかと考えられる。

5. まとめと今後の課題

本研究では、外国人留学生の授業シラバスの理解を促進するカタカナ語の学習をさぐるために、予備調査の一つとして、香川大学の授業シラバスに出現するカタカナ語の調査を行った。その結果、今回分析対象としたシラバス全体におけるカタカナ語の割合は3.91%であることが分かった。また、主題科目のシラバスには、出現頻度・種類ともに、学問基礎科目のシラバスよりも多くのカタカナ語が出現することが明らかになった。

語構成では、単純語よりも合成語のほうが多かった。合成語については、カタカナ語同士で構成された語よりも、混種語が多いことが明らかになった。出現度数では、学問基礎科目で頻出する語と、主題科目で頻出する語の種類に差がみられた。また、多くのシラバスに出現する広範囲語を調べたところ、いずれの語も、大学の仕組みや授業の形態・手法などに関する語であることが分かった。品詞の分析では、名詞以外の品詞で出現したカタカナ語は極めて少なかった。さらに、出現したカタカナ語を日本語能力試験出題基準に照らし合わせたところ、級外, N2・N3, N1の順に多く、シラバスに出現するカタカナ語は、留学生にとって難易度が高いものが多いことが分かった。

以上のことから、留学生のシラバスの理解を促進するためには、大学の仕組みや授業の形態・手

法などに関わるカタカナ語の語彙教育が必要であることが明らかになった。しかしながら、本調査では全ての授業シラバスを調査することができなかったため、今後、さらなるシラバスの調査が必要である。さらに、留学生に予備教育としてカタカナ語をどのように教えていくかの検討も必要である。

謝辞：本研究は、JSPS 科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号 JP17K02852 の助成を受けたものです。

注

- ¹ http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2017/index.html (最終閲覧日：2018年11月21日)
- ² 現在は紙媒体の印刷物はなく、香川大学教務システム (Dream Campus) で、Web 上に公開されているシラバスのみである。
- ³ 全学共通科目には、主題科目と学問基礎科目の他に、コミュニケーション科目と高度教養教育科目がある。
- ⁴ <https://www.kagawa-u.ac.jp/faculty/common/commonness/> (最終閲覧日：2018年11月21日)
- ⁵ <http://tanimoto.to/nlp/WebCha.php> (最終閲覧日：2018年11月21日)
- ⁶ http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/morphology.html (最終閲覧日：2018年11月21日)
- ⁷ 分散分析には、Microsoft Office Excel 2003 を用いた。
- ⁸ 合成語となるカタカナ語の異なり語の総数を示すため、「カタカナ語同士」と「混種語」の両方を構成する語は、まとめて一つに集計した。
- ⁹ 「共通教育スタンダード」とは、全学共通教育の方針のことである。
(https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/18833/ 最終閲覧日：2018年11月21日)。
- ¹⁰ 異なり語の合計では、異なる品詞で使われる場合は、それぞれ違う語とみなし1語として集計した。
- ¹¹ <http://language.tiu.ac.jp/> (最終閲覧日：2018年11月21日)
- ¹² 65語のうち、「ネクスト」は「ネ」「ク」「スト」と分けられて判定されたが、級外に含めた。

参考文献

- 石綿敏雄 (2001) 『外来語の総合的研究』東京堂出版
- 金愛蘭 (2011) 『20世紀後半の新聞語彙における外来語の基本語化』大阪大学日本語学講座
- 金愛蘭 (2012) 「外来語の基本語化」, 陣内正敬・相澤正夫・田中牧郎編『外来語研究の新展開』おうふう, 29-45.
- 中山恵利子 (2001) 「日本語教科書の外来語と新聞の外来語」『日本語教育』109, 日本語教育学会, 90-99.
- 中山恵利子・陣内正敬・桐生りか・三宅直子 (2008) 「日本語教育における『カタカナ語教育』の扱われ方」『日本語教育』138, 日本語教育学会, 83-91.
- 橋本和佳 (2003) 「40年間の新聞投書欄に見る外来語の定着」『同志社国文学』59, 同志社大学国文学会, 89-102.
- 橋本和佳 (2006) 「朝日新聞社説の外来語－出自別推移を中心に」『同志社国文学』64, 同志社大学国文学会, 178-186.
- 三宅和子 (2006) 「『ことばの教育』は何をめざすのか－アカデミック・ジャパニーズの地平から見えてきたもの」, 門倉正美・筒井洋一・三宅和子編『アカデミック・ジャパニーズの挑戦』ひつじ書房, 189-204.
- 山下直子・畑ゆかり・轟木靖子 (2013) 「韓国語母語話者に対するカタカナ語の指導の試み－聞き取りテストと意識調査より－」『言語文化と日本語教育』45, 日本言語文化学会, 20-29.
- 山下直子・轟木靖子・畑ゆかり (2015) 「カタカナ語の聞き取りテストとカタカナ語に関する意識調査－韓国語・タイ語・中国語母語話者の場合－」『比較文化研究』119, 日本比較文化学会, 81-90.

山口昌也(2007)「第4章 新聞記事における語彙の時間的変化分析－語種との関係を中心に」『国立国語研究所報告 公共媒体の外来語』126, 国立国語研究所, 89-102.

香川大学(2017)「香川大学シラバス(2017年度)」, 最終閲覧日: 2018年11月21日.
<https://www.kagawa-u.ac.jp/campus-life/about-class/syllabus/>